

●メリークリスマス！本日は4本目の「愛」のキャンドルに火を灯し、イエス様がこの世にもたらされた「愛」について思いを馳せます。

パトリシア・ムーアという人が、イギリスのある病院の一室で見つかった一人の高齢者の詩を紹介しています。この詩は高齢者の抱える切実な願いが込められたもので、そこには、表面的な部分だけでなく、自分の人生や想いに目を向けてほしいという深い願いが記されており、私たちが抱える「本当の私を見てほしい、愛してほしい」という普遍的な思いが浮き彫りにされているのです。

またこの詩は、外見や力強さばかりに価値を置く社会が、多くの人の心の叫びを見過している現実を映し出し、往々にして私たちが愛や共感する力に欠けてしまっていることを示しています。

●聖書の時代も高齢者や女性は社会的に低く扱われていました。そして、今日の聖書に登場する羊飼いたちもまた、同じような状況に置かれていました。羊は日常生活や宗教儀式に欠かせない存在であり、羊飼いはユダヤ社会を支える重要な役割を担っていました。しかし、彼らの仕事は律法を完全に守ることが難しく、汚れた職業と見なされることが多かったのです。

そんな羊飼いたちに、イエス様の誕生が最初に告げられたことは驚くべき出来事でした。天使は羊飼いたちに、「あなた方のために救い主が生まれた」と告げ、「飼い葉桶に寝かせられた乳飲み子があなた方へのしるしだ」と伝えました。神が人の姿をとり、最も無力な形でこの世に生まれたというクリスマスの出来事は、孤独や痛みを抱えた全ての人に寄り添う「神の愛」の始まりだったのです。

●先に紹介したパトリシア・ムーアは28歳の時、85歳の高齢者に変装して3年間の日常体験を行い、高齢者が直面する困難を実感しました。この経験を通じて、彼女はすべての人が利用しやすい商品や社会を目指す「ユニバーサルデザイン」を提唱し、その生涯をかけて、一人の命が大切にされる社会の実現を目指したのです。

●イエス様の誕生は、当時特定の人々に向けられていると考えられていた「愛」と「救い」を、ユニバーサル(普遍的)なものとして宣言する出来事でした。イエス様は神でありながら人となり、この世の孤独や苦しみを分かち合い、全ての人に神の愛を伝え、そしてその愛の究極の形として、ご自身の命を十字架に捧げられたのです。クリスマスは、その「愛」を思い起こす時です。この愛に応えながら、私たちもまた、一人ひとりの命が尊ばれ、守られる社会を目指して歩んでいきたいと願います。